※令和4年度以降入学生用

学校番号	1003

令和　5　年度　　数　学　　科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3　単位	年次	1　年次
使用教科書	「高等学校 数学Ⅰ」（数研出版）						
副教材等	「教科書傍用　クリアー 数学Ⅰ＋A」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ⅰは、数学Aとともに高校数学の基本となる科目です。大切な土台となる内容なので、きちんと理解するようにしましょう。そのためにも、集中して授業に取り組み、公式や主な解法を正確に理解しましょう。また、復習を重視して授業内容の定着を図るとが有効です。始める前から数学を嫌がる必要はありません。高校入学によって、苦手な数学を得意科目に変えることも可能です。前向きな気持ちで取り組んでくれることを願います。

2　学習の到達目標

(1)数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
(2)事象を数学的に考察する能力を培う。
(3)数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，2次関数，図形と計量及びデータの分析における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し， 基礎的な知識を身に付けている。 数と式，2次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，2次関数，図形と計量及びデータの分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。事象を数学的に表現できる。	数と式，2次関数，図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知 (a)	思 (b)	主 (c)
1	実数 式の計算	整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解 3次式の展開と因数分解 実数 根号を含む式の計算 二重根号	a:.整式，実数，について理解し、無理数の計算をしたり，整式の展開や因数分解など整式の基礎的な計算ができる。 b:数の範囲を拡張することの意味を理解するとともに，整式の見方を豊かにし，方程式や不等式について考察することができる。 c:整式，実数に関心をもつとともに，その有用性を認識し，それらを問題の解決に活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等
	集合と命題 一次不等式	一次不等式 絶対値を含む方程式・不等式 命題と条件 命題と証明	a:方程式・不等式について理解し，基本的な知識を身に付けている。 b:身の回りの事象について、不等式を用いて問題を解決することができる。事象を命題におきかえて表現することができる。 c:絶対値がどのような場合に有効かを理解し、積極的に活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等
2	二次関数の値の変化 二次関数	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定	a:2次関数とそのグラフ及び関数の値の変化について理解し，基礎的な知識を身に付けている。 b:表，式，グラフを関連づけながら変化の様子をとらえることができ，具体的な事象について，ともなって変化する2変数に着目して変化の様子を見出すことができる。 c:，関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し，2次関数を活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等
	三角比 二次方程式と二次不等式	2次方程式 放物線とx軸の位置関係 放物線と直線の共有点の座標 2次不等式 三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張	a:2次関数のグラフとx軸や直線との位置関係について、正しく理解し、計算によって位置関係をいえる。三角比の定義を正しく理解できている。 b:放物線とx軸の共有点の座標から、2次不等式の解を考察できる。三角比の定義から相互関係を理解し、三角比の値を求められる。 c:さまざまな2次不等式を解くことができる。三角比の定義を鈍角まで拡張し、考えられる。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等
3	三角比への応用	正弦定理 余弦定理 正弦定理・余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	a:正弦定理、余弦定理の内容を正しく理解している。 b:正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角度などが求められる。具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し，図形の様々な計量を行うことができる。 c:計量に関心をもつとともに，具体的な事象の考察に活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等
	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位範囲 分散と標準偏差 データの相関 表計算ソフトによるデータの分析	a:データの分析に関する用語の理解ができている。 b:データの散らばりの度合いをさまざまな角度から分析し、複数のデータの相関関係について考察することができる。 c:仮平均や変量の変換の考え方を学び、さらに詳しくデータを分析することができる。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物等

※　表中の観点について　　a：知識・技能　　b：思考・判断・表現　　c：主体的に学習に取り組む態度